

尼崎市富松町2の富松神社で26日、夏恒例の「富松新能」があった。地元の小学生9人と武庫川女子大音楽部がはかま姿で仕舞を演じたほか、大人の能楽師らが狂言や能を披露。常設の能舞台を囲んだ人たちが拍手を送った。

富松新能は、地域の文化向上と伝統芸能継承のため、1980年に始まった。さらに、同神社や地元住民らが2003年に「尼崎こども能楽教室」を設立。受講生は月2回、同市出身の観世流能楽師、山村啓雄さん(83)から仕舞と



多くの観客に見守られながら、練習の成果を披露する小学生＝尼崎市富松町2

特訓重ねた舞披露

尼崎・富松神社で新能
地元の児童らはかま姿で

謡を教わり、毎年新能に向けた猛特訓を続けていく。

受講生のうち7人は、今年3月の成興発表会、5月の尼崎新能でも仕舞や謡を演じてきた。この日は、はかま姿で1人ずつ仕舞を、全員で連吟「高砂」を披露した。

尼崎北小6年水野湧太君(11)は「松虫」を披露。4年の頃から教室に通っており「今日は少し間違えたので(100点満点)80点。達成感があるから続けてきて良かった」と話した。

(中川恵)